

## 指定水域における水環境の現状

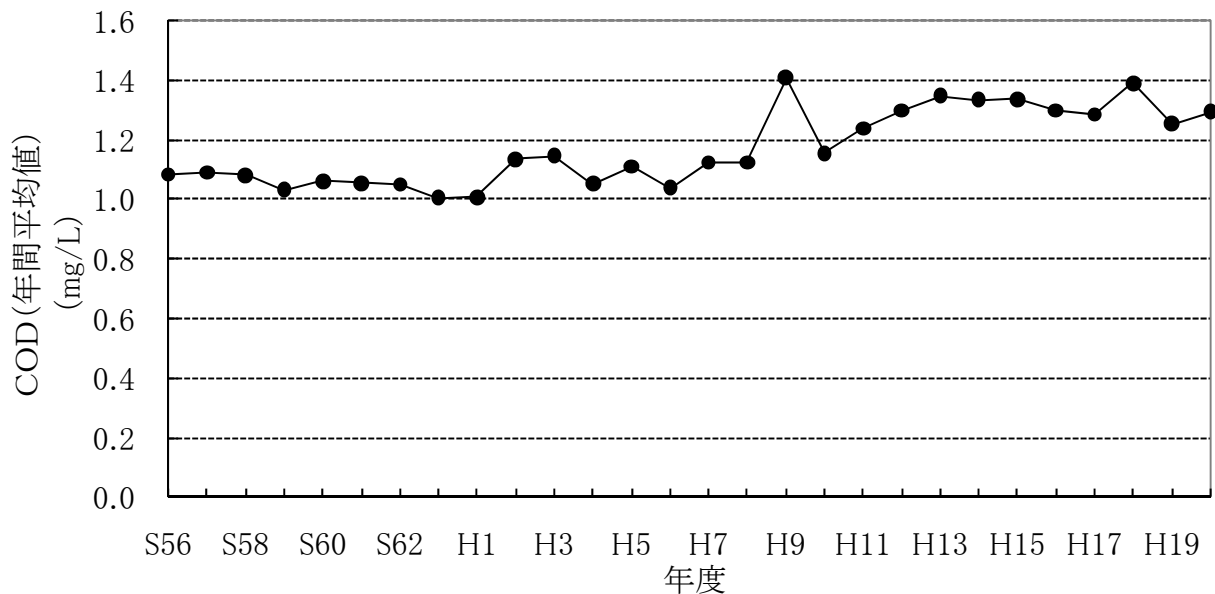
### 1 水質濃度の現状及び推移

広域総合水質調査結果（環境省）をもとに、指定水域における水質濃度の現状及び昭和 56 年度から平成 20 年度までの推移をみると以下の通りである。

#### (1) COD

指定水域におけるCOD（化学的酸素要求量：COD）の濃度レベルは、東京湾、三河湾が最も高く、続いて大阪湾、伊勢湾（三河湾を除く）、瀬戸内海（大阪湾を除く）の順となっている。

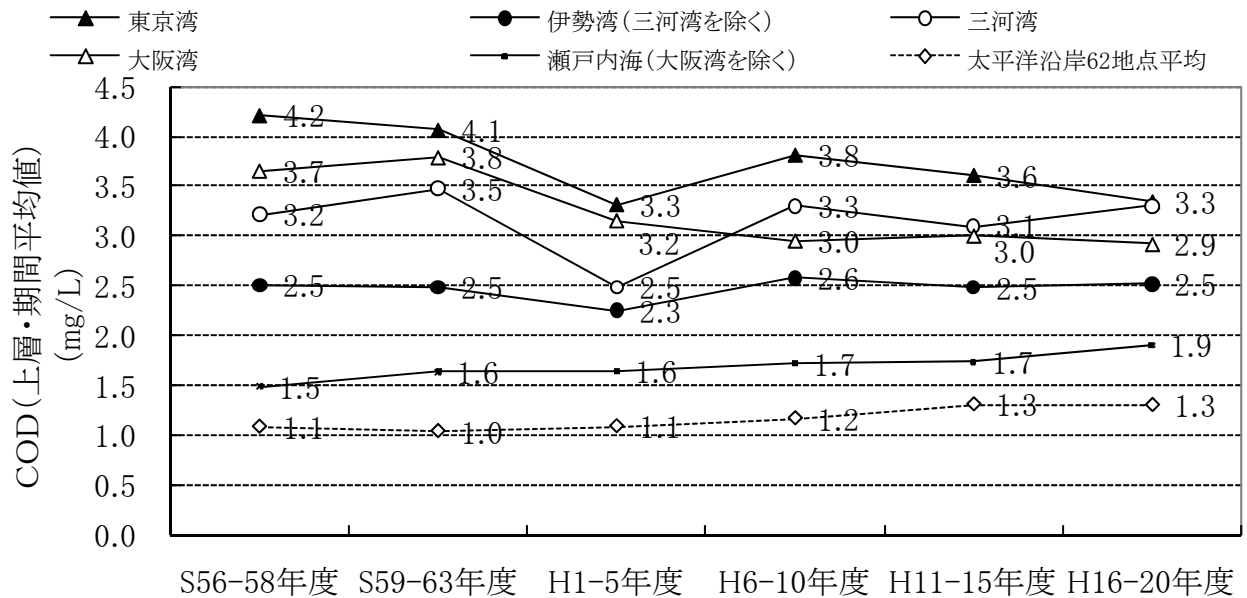
昭和 56 年度から平成 20 年度までのCOD濃度の推移を見ると、東京湾、大阪湾においては低下傾向が見られ、伊勢湾（三河湾を除く）は横ばいで推移している。三河湾においては、COD濃度が低下しているかどうか定かではないが、瀬戸内海（大阪湾を除く）ではわずかに上昇傾向が見られる（図 5-2）。太平洋沿岸における近年のCODの濃度は変化が小さいため（図 5-1）、太平洋沿岸におけるCOD濃度の変化分を差し引く補正をしても、各指定水域における傾向は変わらない（図 5-3）。



出典) 公共用水域水質測定結果（環境省）

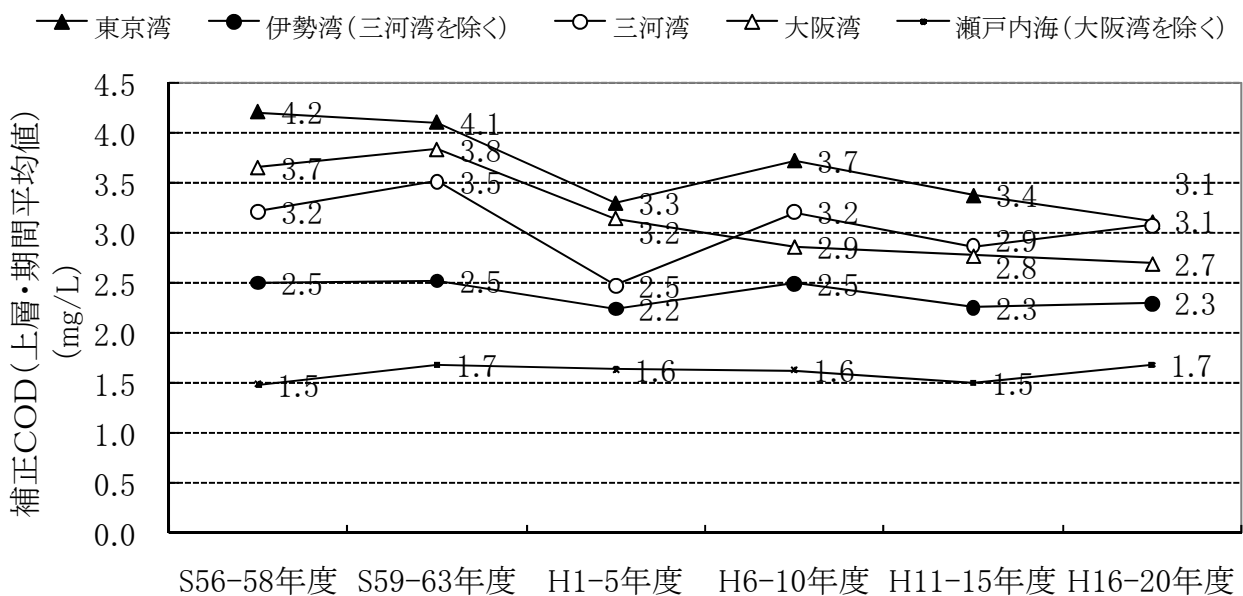
備考) 黒潮の流路に近接する太平洋沿岸県の環境基準点のうち、閉鎖性海域、港湾及び漁港等の陸域の影響を受けやすいと考えられる環境基準点を除外した 62 地点の平均値。

図 5-1 太平洋沿岸における平均 COD 濃度の推移



出典) 太平洋沿岸 62 地点平均については、公共用水域水質測定結果 (環境省)。その他の海域については、広域総合水質調査 (環境省)

図 5-2 海域別の COD 濃度の推移

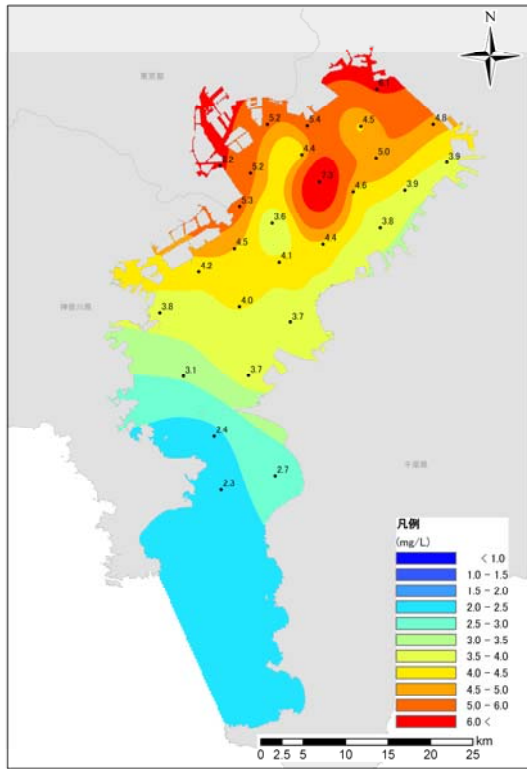


出典) 広域総合水質調査 (環境省)、公共用水域水質測定結果 (環境省)

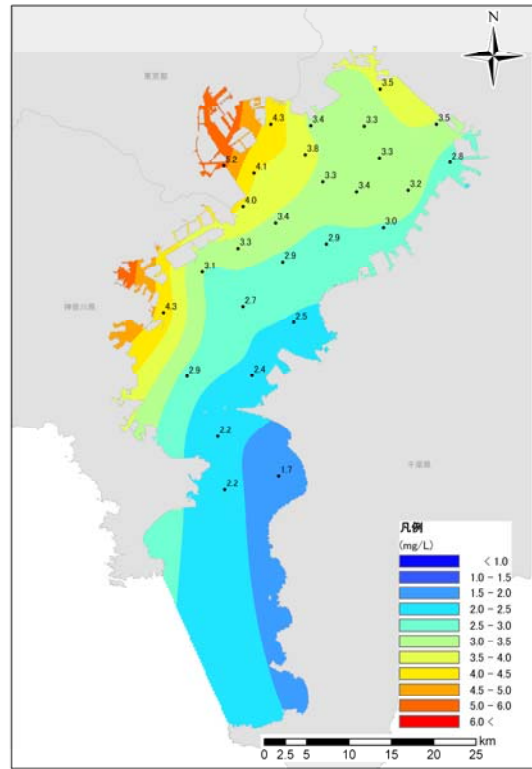
備考) 補正 COD とは、各指定水域の COD から、昭和 56~58 年度の期間平均濃度を基準とする太平洋沿岸における平均 COD の変化分を差し引いた値。

図 5-3 海域別の補正 COD 濃度の推移

また、総量削減の開始された当時と近年の水平分布図を比較すると、東京湾については各測定地点の COD 濃度は低下しており改善傾向が見られる。伊勢湾及び瀬戸内海については COD 濃度が上昇した測定地点も見られるが、顕著な汚濁域は減少している (図 5-4~6)。



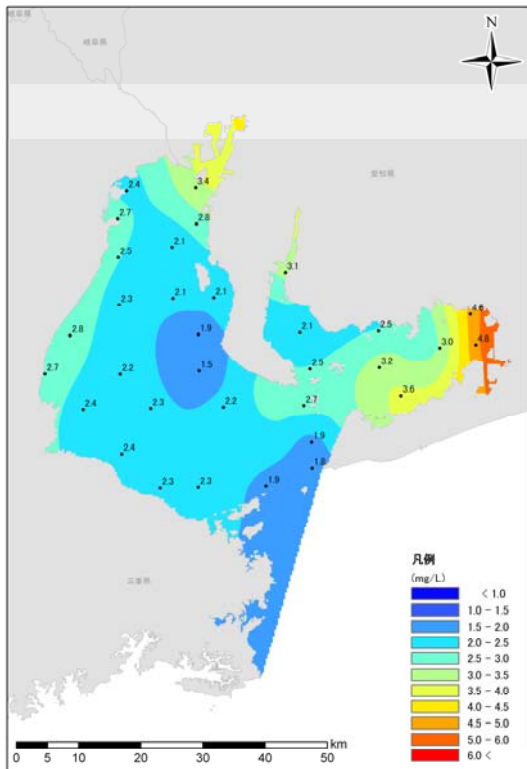
昭和 57~59 年度の平均



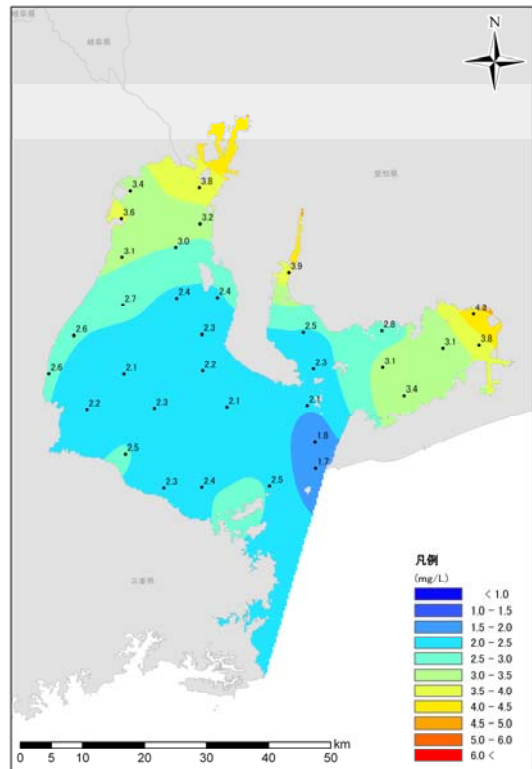
平成 18~20 年度の平均

出典) 広域総合水質調査 (環境省)

図 5-4 東京湾における COD の分布



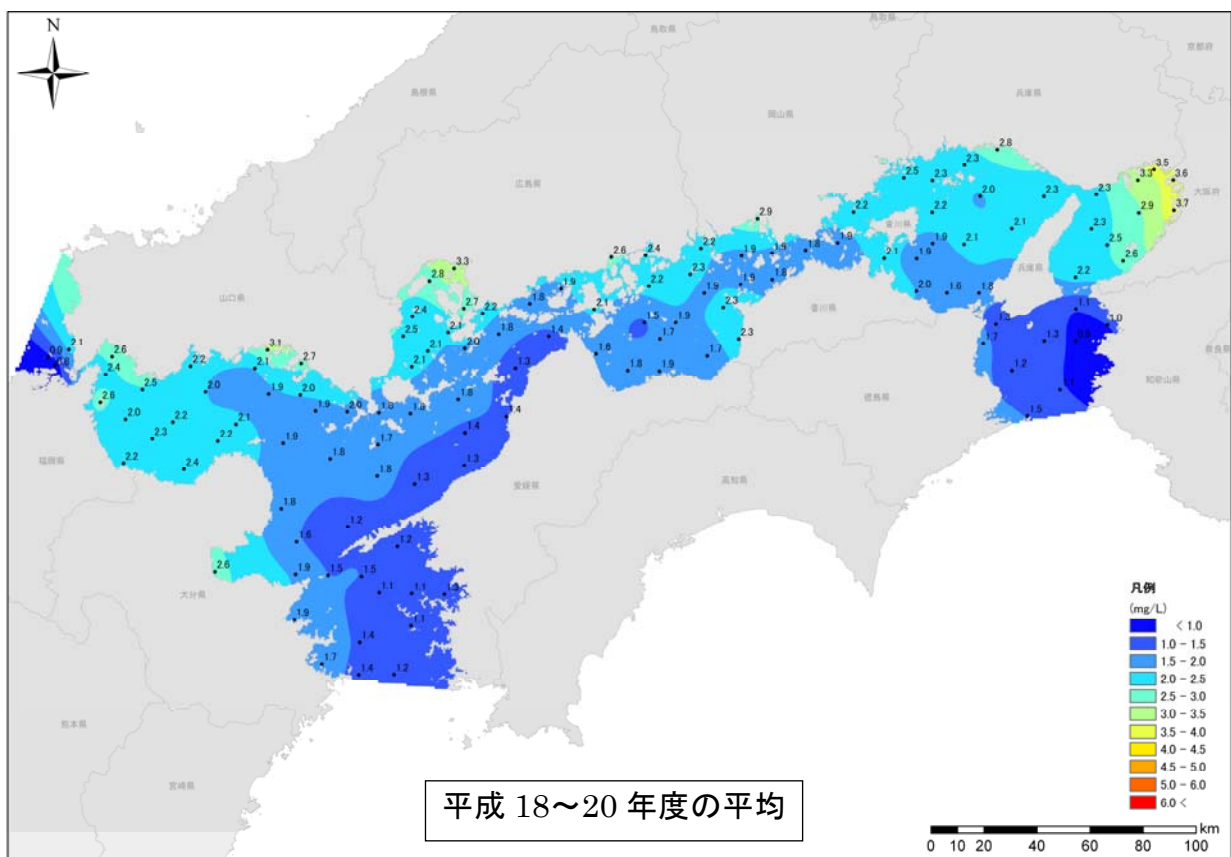
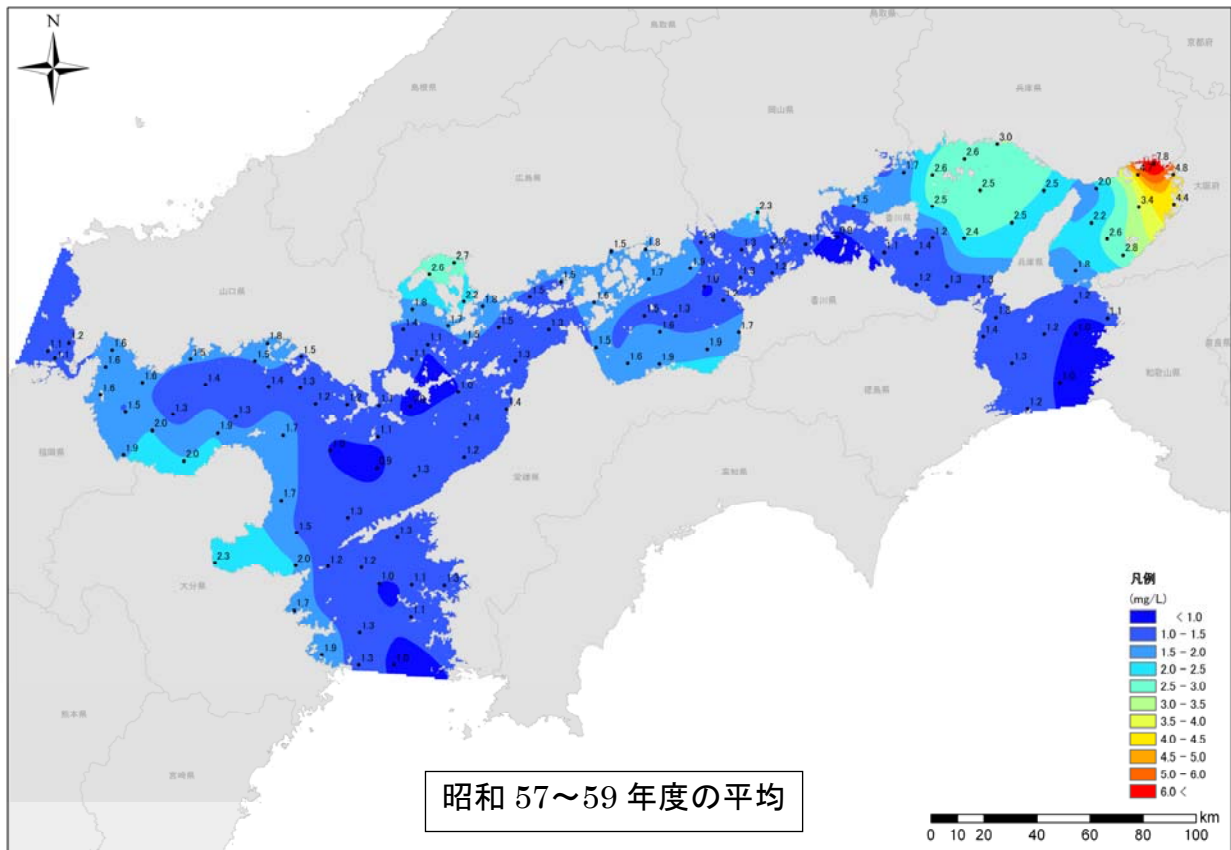
昭和 57~59 年度の平均



平成 18~20 年度の平均

出典) 広域総合水質調査 (環境省)

図 5-5 伊勢湾における COD の分布



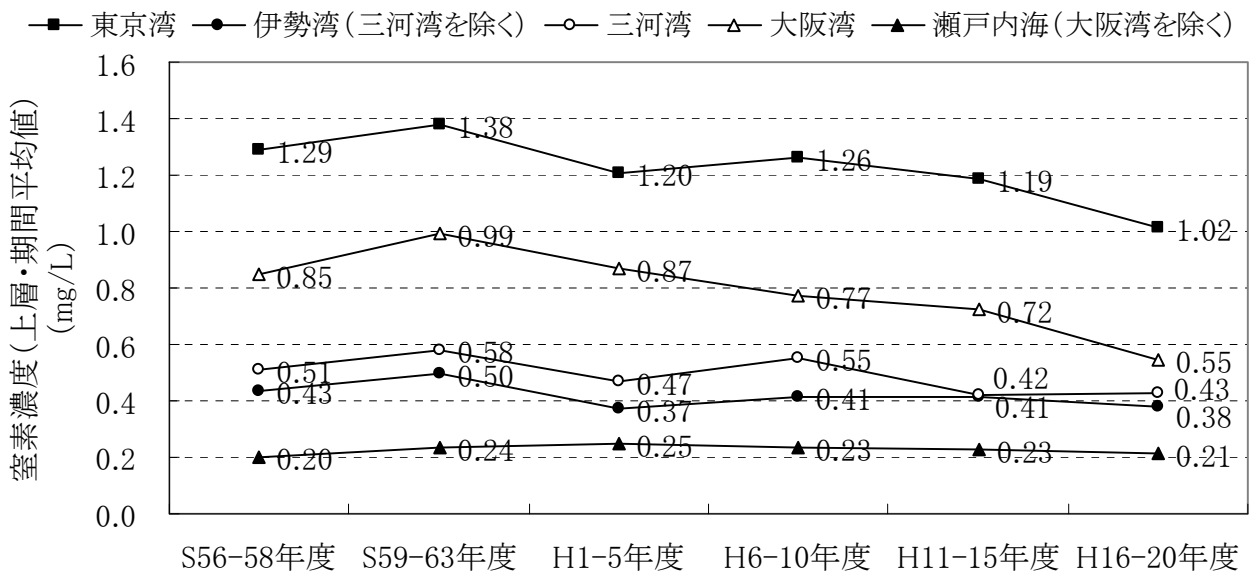
出典) 広域総合水質調査 (環境省)

図 5-6 瀬戸内海における COD の分布

## (2) 窒素

指定水域における窒素（全窒素：T-N）の濃度レベルは、東京湾が最も高く、続いて大阪湾、三河湾、伊勢湾（三河湾を除く）、瀬戸内海（大阪湾を除く）の順となっている。

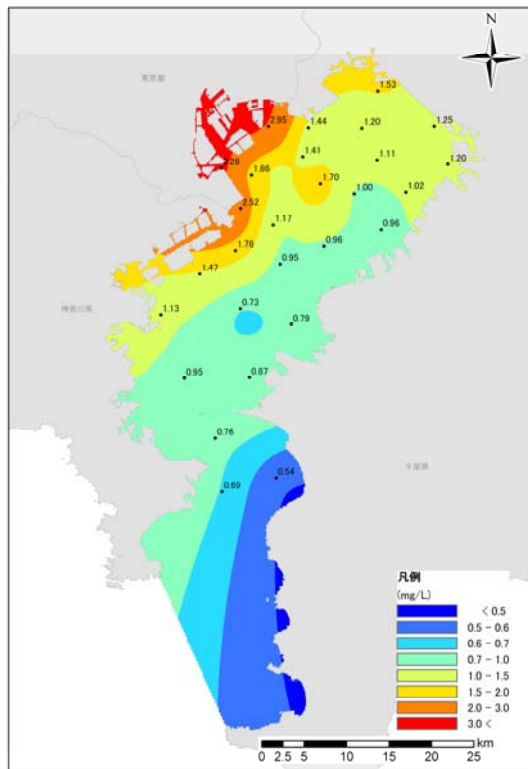
昭和 56 年度から平成 20 年度までの窒素濃度の推移をみると、東京湾、大阪湾においては低下傾向が見られる。伊勢湾（三河湾を除く）、三河湾及び瀬戸内海（大阪湾を除く）においては、ほぼ横ばいで推移している（図 5-7）。



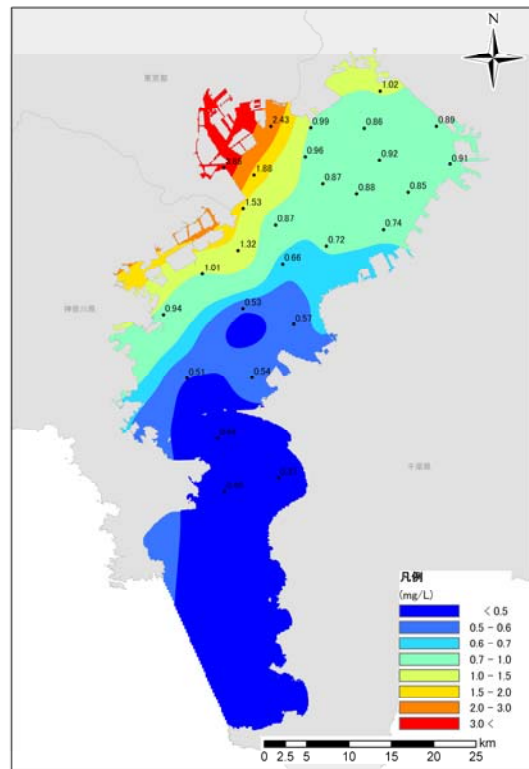
出典) 広域総合水質調査 (環境省)

図 5-7 海域別の窒素濃度の推移

また、総量削減の開始された当時と近年の水平分布図を比較すると、東京湾については東京都の湾奥部で汚濁域の減少が見られ、東京湾中央部から湾口部にかけても改善傾向が見られる。伊勢湾及び瀬戸内海については窒素濃度が上昇した測定地点も見られるが、顕著な汚濁域は減少している（図 5-8～10）。



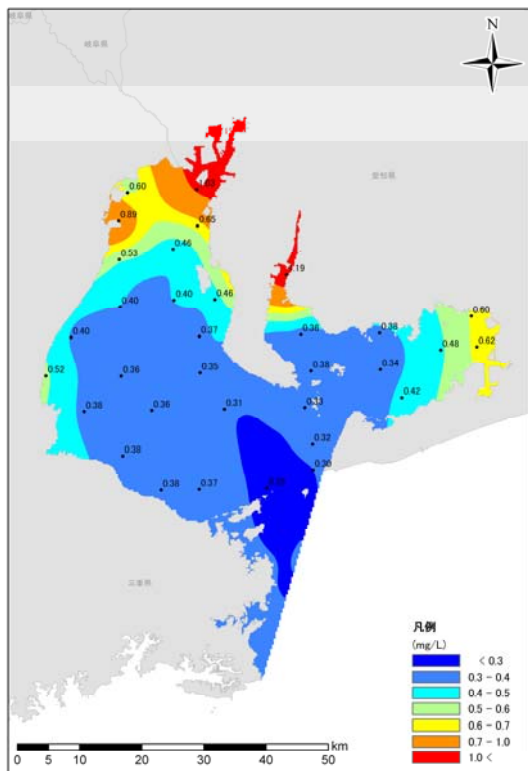
昭和 57~59 年度の平均



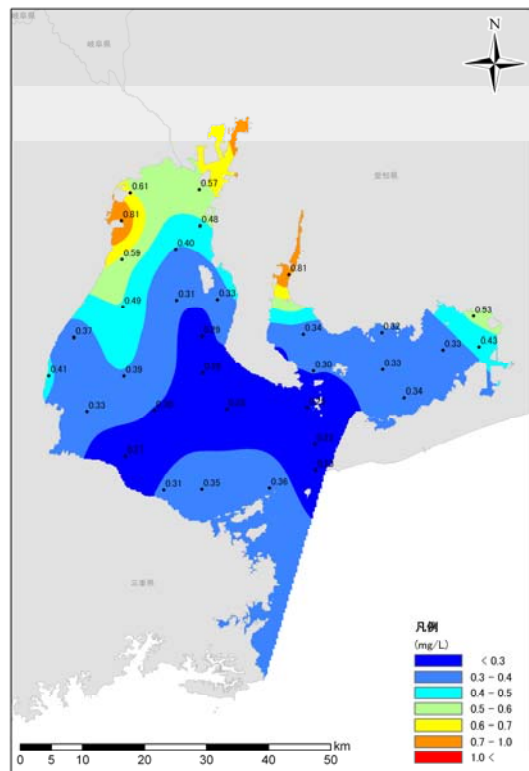
平成 18~20 年度の平均

出典) 広域総合水質調査 (環境省)

図 5-8 東京湾における T-N の分布



昭和 57~59 年度の平均

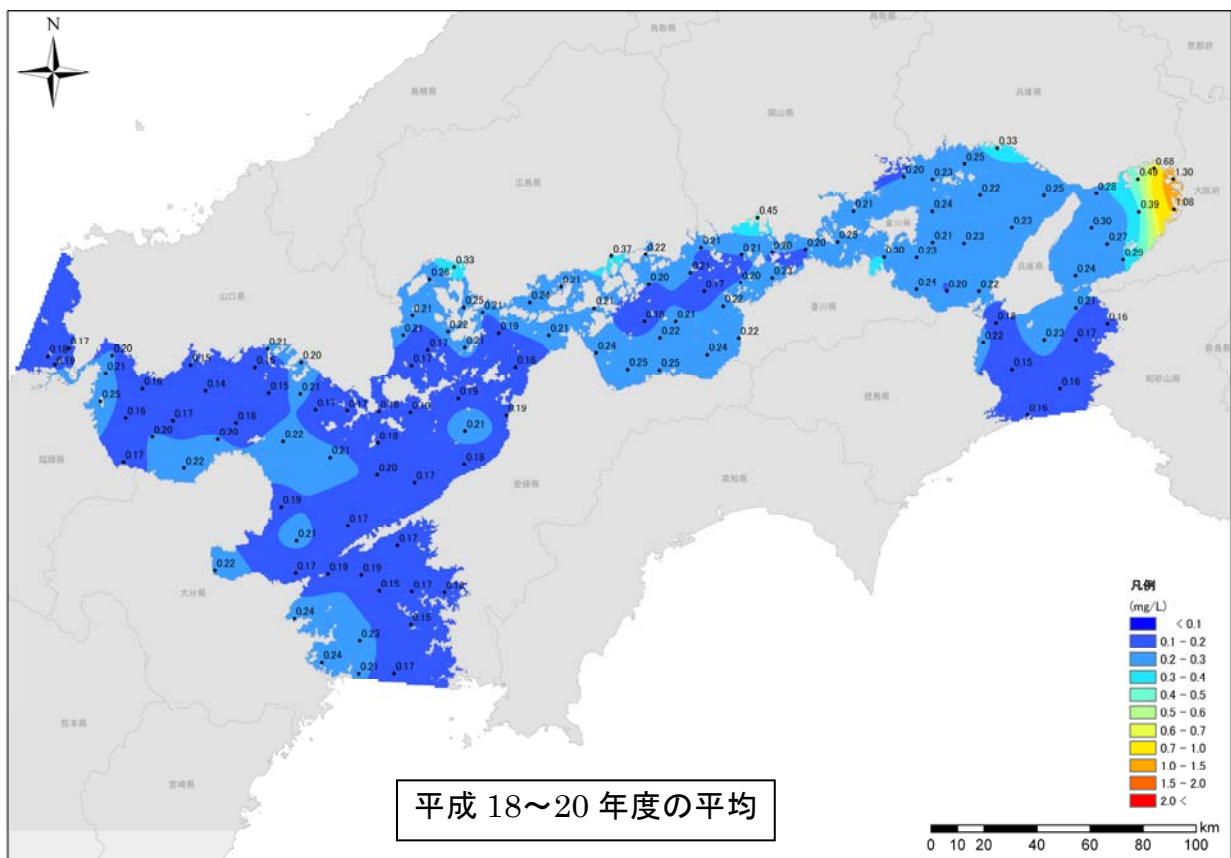
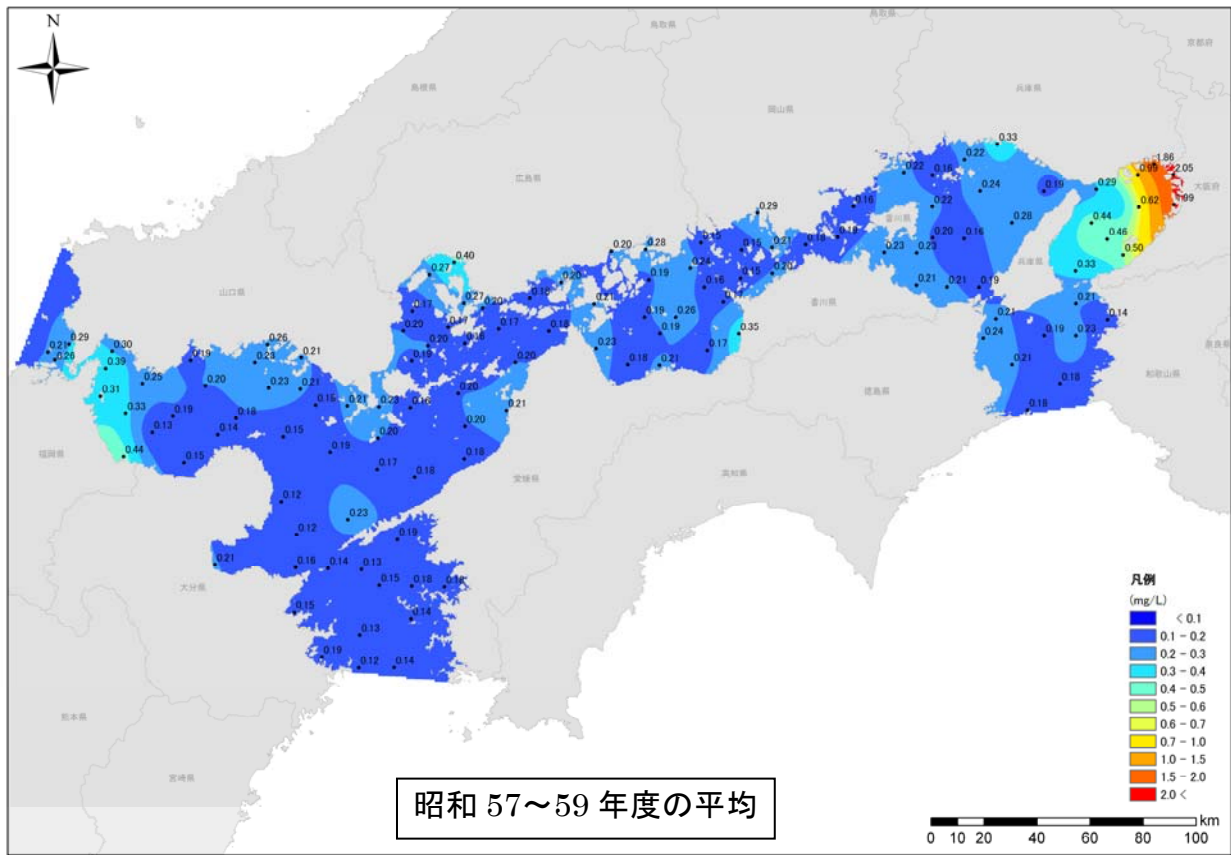


平成 18~20 年度の平均

出典) 広域総合水質調査 (環境省)

図 5-9 伊勢湾における T-N の分布





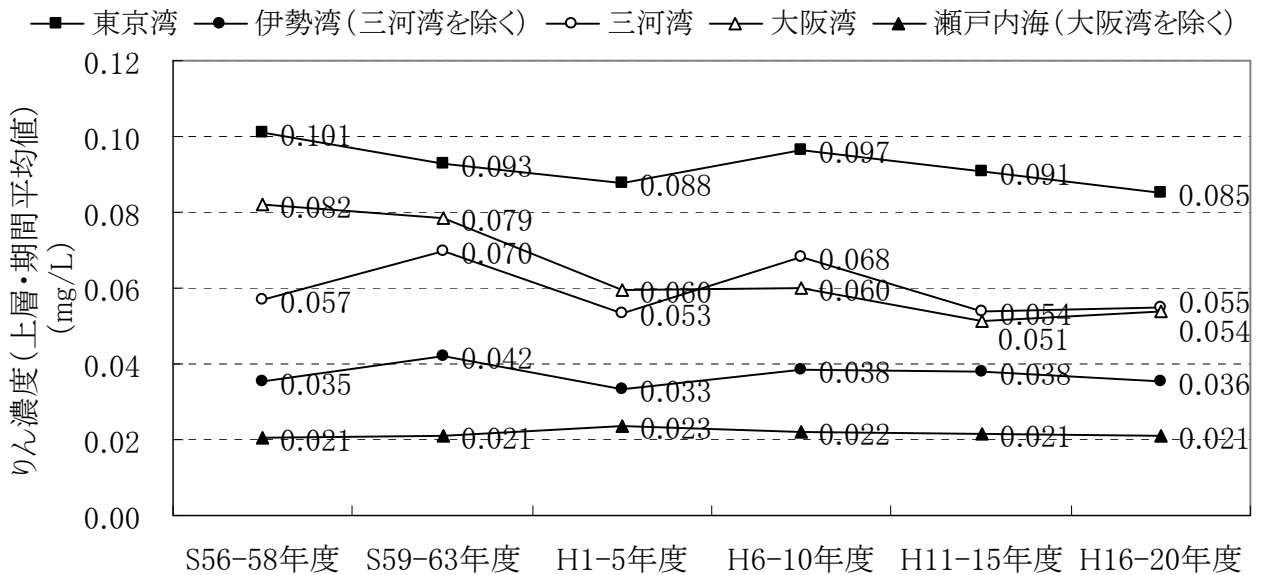
出典) 広域総合水質調査 (環境省)

図 5-10 瀬戸内海における T-N の分布

### (3) りん

指定水域におけるりん（全りん：T-P）の濃度レベルは、東京湾が最も高く、続いて三河湾、大阪湾、伊勢湾（三河湾を除く）、瀬戸内海（大阪湾を除く）の順となっている。

昭和 56 年度から平成 20 年度までのりん濃度の推移を見ると、東京湾、大阪湾においては低下傾向が見られる。三河湾においてはりん濃度が低下しているかどうかは定かではないが、伊勢湾（三河湾を除く）及び瀬戸内海（大阪湾を除く）では横ばいで推移している（図 5-11）。



出典) 広域総合水質調査 (環境省)

図 5-11 海域別のりん濃度の推移

また、総量削減の開始された当時と近年の水平分布図を比較すると、りん濃度が上昇した測定地点も見られるが、東京湾、三河湾及び瀬戸内海においては顕著な汚濁域は減少している（図 5-12～14）。